

東京都総合教育会議

令和6年10月17日

(テーマ)

これからの学校の在り方について
—あらためて「学校の役割」を考え直す—

社会をめぐる状況、都が目指す姿

2050

いまだ多くの課題が山積

急速に進む少子高齢化や人口減少

国際競争力の低下、DXの遅れ

長引く国際紛争、気候変動

バックキャスト

2035

2035年の将来像

ダイバーシティ
スマートシティ
セーフシティを進化

2050年代の東京の姿

「世界で一番の都市・東京」
もっと! /

全ての人が輝く東京

活力あふれる東京

安全・安心な東京

2024



政策を一段とレベルアップし、
都政のダイナミックな動きを加速

教育政策も レベルアップ!

東京都教育施策大綱

令和3年3月30日改定

◆ 東京の目指す教育 ◆

誰一人取り残さず、
すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育

「東京型教育モデル」の実践

3つの「学び」を有機的に連携させ、日々実践・改善



「東京型教育モデル」で実践する 特に重要な事項

- 1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現
- 2 Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材の育成
- 3 世界に羽ばたくグローバル人材の育成
- 4 教育のインクルージョンの推進
- 5 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実
- 6 子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化



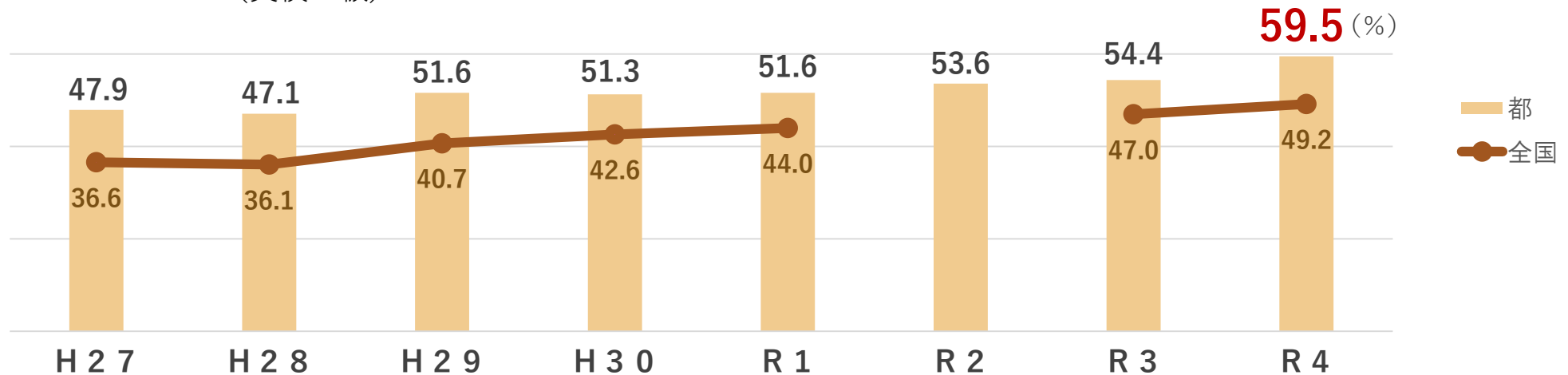
グローバル人材の育成

- 中学校英語スピーキングテストの実施
- JETプログラムによる外国人指導者の配置拡充
- 体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」
- 都立高校生等の海外派遣



グローバル人材の育成

CEFR A1相当以上の英語力を有する中学生の割合
(英検3級)

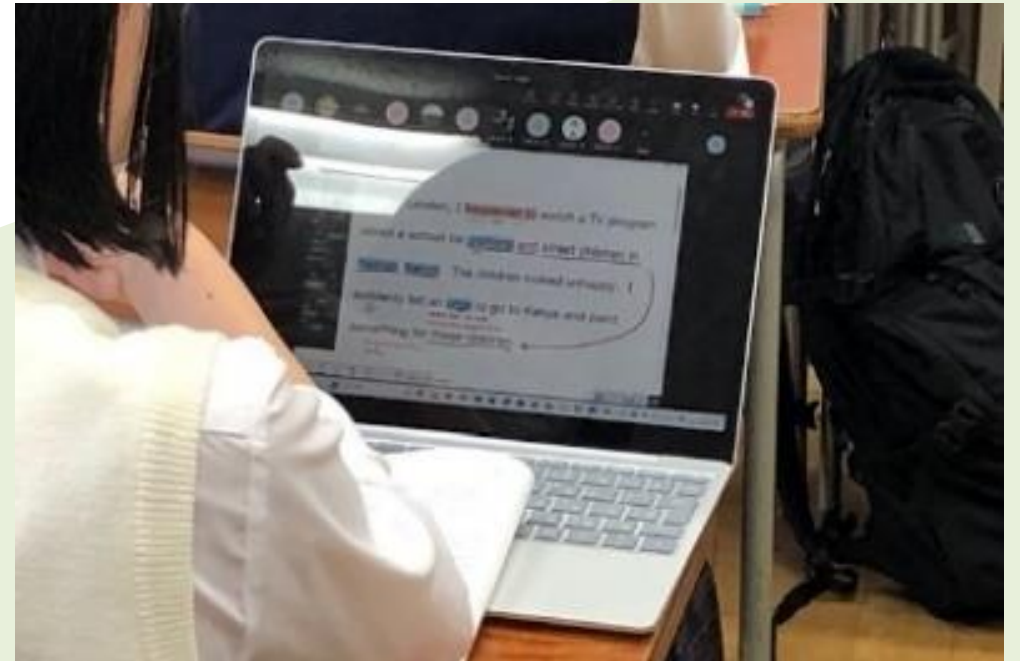


生徒の英語力は、着実に向上（国より約10ポイント上回る）

言葉の壁を越えて国際社会に羽ばたき、イノベーションを生み出して未来を創造する人材の育成が一層求められている

教育DXの推進

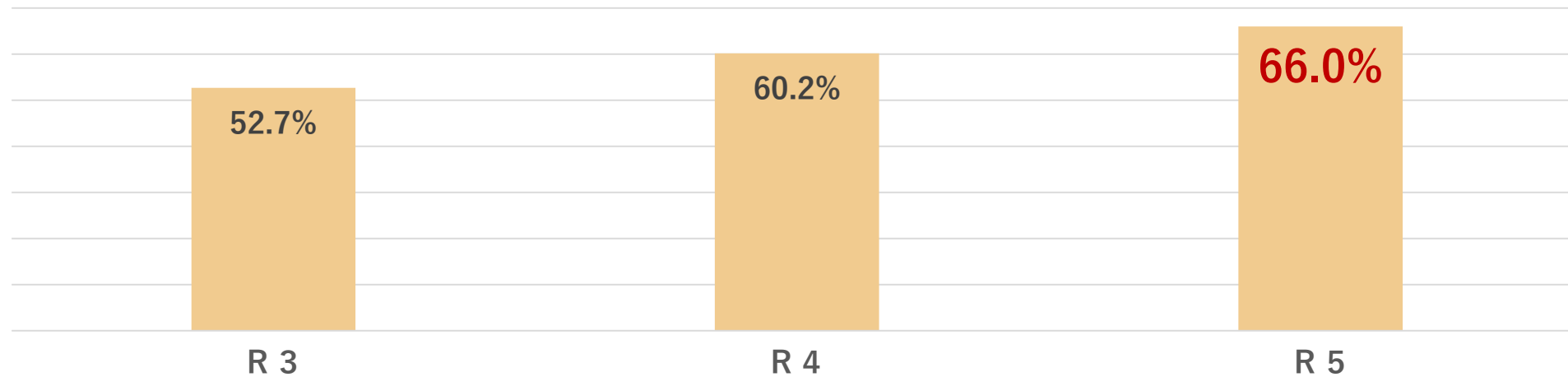
- 一人1台端末の計画的な更新
- 都立学校専用の生成AIの整備・活用
- 都立学校の教職員と保護者との連絡を効率化するシステム
- デジタルサポーターの配置



教育DXの推進

授業におけるICTの活用頻度

2日に1回以上使う教員の割合（都立学校）



授業でのICT活用は増加傾向

デジタルの力を活用し、子供が、学びのプロセスを自ら決定し、思考のスキルを身に付けられるよう、学び方そのものの転換が必要

きめ細かいサポートの充実

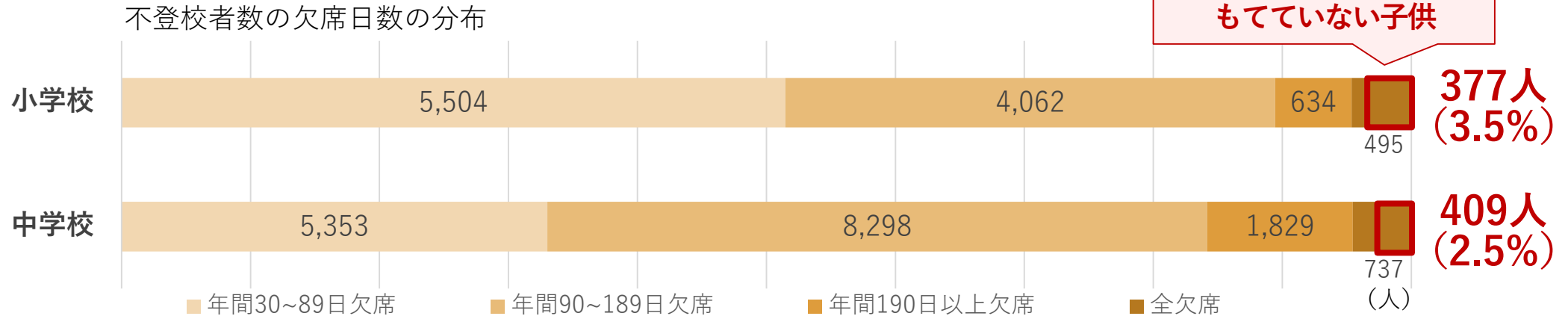
- 不登校対応校内分教室「チャレンジクラス」の設置
- 外部専門人材の活用促進
- 仮想空間上の居場所・学びの場の提供
- 日本語指導の充実に向けた「オンラインアセスメント」の導入
- 高校と特別支援学校の一体的な設置等の検討



きめ細かいサポートの充実

不登校

学校等と全く関わりをもてていない子供の状況



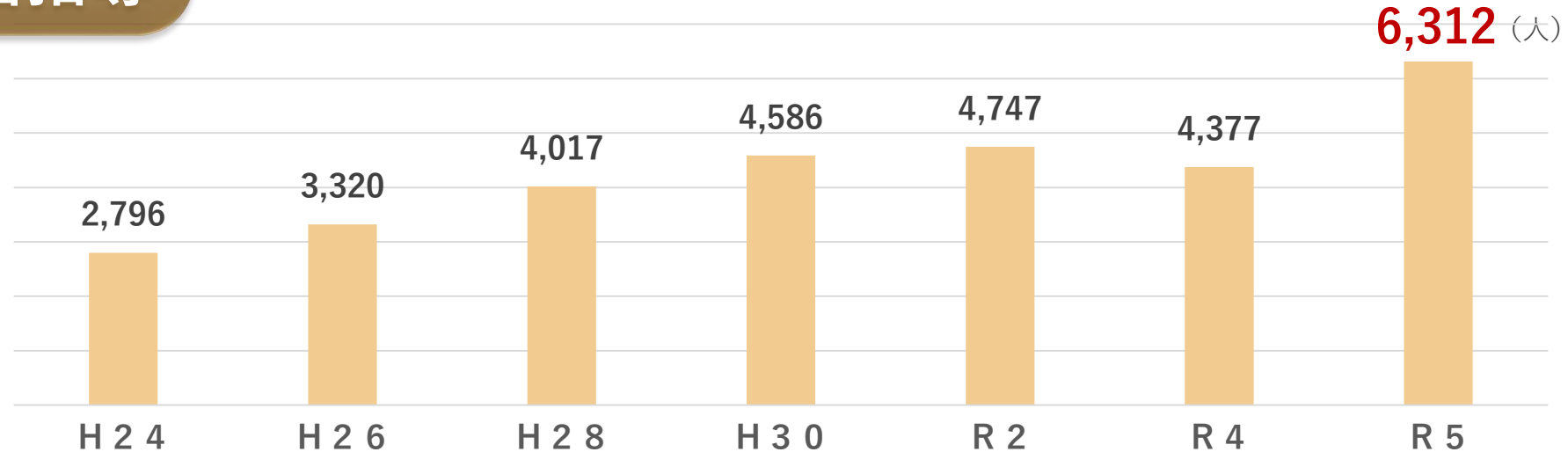
学校等と全く関わりをもてていない小・中学生が約800人存在

不登校児童・生徒の数が増加するなど、
学校内外における多様な学びの必要性が増している

きめ細かいサポートの充実

日本語指導

日本語指導が必要な児童・生徒数



日本語指導が必要な児童・生徒が増加

多様な背景をもつ子供たちにとって、インクルーシブな教育等、多様性がバリアにならない教育環境を提供することが重要

論点

今の日本の教育でネックになっていることは何か

課題を打開していくために、学校はどう変わっていくべきか

今の学校の仕組みや制度を考え直すことも必要ではないか

例)

一斉授業

学年学級制
(年齢主義)

知・徳・体
特別活動

教科書

学習指導要領

教職員の配置

正解主義

平等性

同調圧力